



テキサスでの学会にて、Chili Cookoff dinner(屋外でチリコンカンをつくっておいしさを競う催し)に参加。ハワイ大チームは見事(?)「Out of Town Chili」賞に輝いた(左から2番目が筆者)



帰国の前にラポメートが開いてくれたfarewell partyにて

野の学生や研究者との交流から、たくさんの興味深いことを学んだ。また同時に、自分の研究テーマの意義について

も考えさせられることが多かった。学位を得し、大学での教育にかかわるようになった今、ハワイで多くの人と交流した経験が大いに役立っている。このような素晴らしい機会を与えていただき、経団連の方々および皇太子奨学金財団の方々にはあらためて感謝を申しあげたい。

私は現在、日本の宇宙探査機「はやぶさ」後継機の「はやぶさ2」計画に携わっている。二〇一四年打ち上げ予定の「はやぶさ2」探査機は、水や有機物を含むと考えられる小惑星に到着し、その表面および内部の試料を地球に持ち帰る計画である。最近の研究では、地球の生命の元となった有機物は、太陽系誕生時に形成されたのではないかという説が有力である。すなわち、生命の元は太陽系のあちこちに存在していた可能性がある。「はやぶさ2」の持ち帰る小惑星試料は、太陽系の進化と地球の生命の起源に大きなヒントを与えてくれるに違いない。

月にウサギは住んでいなかったが、他の天体に命の原材料が隠れているかもしれない。ハワイで始めた研究を、日本のお家芸である小惑星探査を通じてさらに深め、宇宙、そして生命の謎の解明に少しでも役立てたいと考えている。

のグループでは、コンドライトと呼ばれる原始的な隕石を分析することで、約四六億年前に太陽系ガス円盤から惑星が形成された当時の条件解明に取り組んでいた。ハワイという恵まれた環境ならではの天文学者や地質学者を交えた議論により、研究を大きく発展させることができた。

当時のHIGPは、モノアキャンパスのシンクレア図書館の地下にあり、授業時間以外は、窓のない分析室と居室で日中のほとんどを過ごした。月曜日から土曜日まで研究室に

### 🌺ハワイでの経験を礎に

こもり、分析とデータ処理に明け暮れた。それは、私の持っていた「南の楽園ハワイ」のイメージからは程遠い世界であった。しかしながら、陽の当たらない地下室で同僚と研究をともし、議論を交わす毎日は、大変刺激的であり充実していた。研究と勉強で時間に追われることがほとんどだったが、ふと顔を上げて外を見回してみると、ゆったりとした時間が流れていることを感じる事ができた。このような、いわば動と静のバランスは、私のハワイ生活にとって心地良いものであった。

# 宇宙への扉——ハワイ大学で 広がった研究の夢

早稲田大学高等研究所助教

小松睦美

こまつ

むつみ

皇太子奨学金奨学生(一九九九—二〇〇〇年)。東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻博士課程修了(理学博士)。NASA ジョンソン宇宙センター—夏期研修生、日本学術振興会特別研究員を経て現職。



## 宇宙への憧れ

その昔私は、月にウサギが住んでいると信じていた。ある時、実は月にウサギは住んでいないということを知り、本当にがっかりしたのを覚えている。そして同時にこう思った。「どうして月にウサギは住んでいないんだろう、地球とは何が違うんだろう?」

この疑問は、私が宇宙、とりわけ太陽系の謎に引かれるきっかけとなった。太陽系の謎の解明に本格的に取り組むべく大学院博士課程への進学を決めた秋、ふと目に留まったのが「皇太子奨学金奨学生」の募集要項であっ

た。ちょうど大学院の先輩がハワイ大学でポスドクを終え帰国したばかりのころ、ハワイの魅力についていろいろと耳にしていたので、迷わず応募書類を提出した。今思えば、この瞬間はまさに自分の人生における大きな転機であった。

## ハワイでの生活

幸運なことに採用通知をいただき、一九九九年八月よりハワイ大学において奨学生生活を開始した。青い空、輝く太陽と爽やかな風は、海外生活を始める不安な気持ちを一気に吹き飛ばしてくれた。

●皇太子明仁親王奨学金(二〇〇八年二月に名称変更)は、現在の天皇陛下のご成婚とハワイご訪問を記念して、ハワイの日系人、ホノルル日本商工会議所、経団連を含めたわが国経済界の協力により、一九六〇年に創設された。日米両国の相互理解と友好親善の推進を目的に、ハワイ大学と日本の大学との相互留学を行っている。

ハワイ大学では、世界有数の天体観測地や活火山であるハワイ島があることを背景に、天文学、海洋科学、地球科学などさまざまな研究が盛んに行われている。そのなかでも私の学んだHIGP(ハワイ地球物理惑星科学研究所)は、SOEST(ハワイ大学海洋地球科学技術学部)の組織下であり、地球物理学に関する世界でもトップレベルの科学者が活躍している。またHIGPは、NASA(アメリカ航空宇宙局)の太平洋地域観測センターも兼ね、米国における宇宙惑星科学・地球観測研究の中核を成す組織の一つでもある。このような恵まれた環境で、私は、ドイツ人のボスを筆頭に、米国人、カナダ人、英国人、ロシア人、デンマーク人という国際色豊かなメンバーに囲まれ研究を行った。

私の研究している隕石は、人類が手にできる太陽系最古の物質であり、太陽系における惑星進化の歴史を保存している。特に私たち